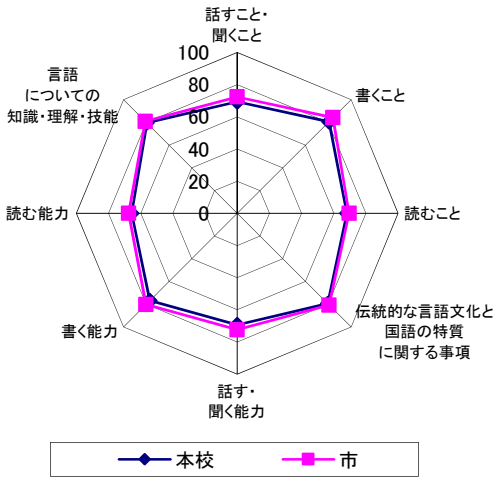


宇都宮市立清原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.3	72.4	70.5
	書くこと	80.6	84.1	70.0
	読むこと	68.2	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	69.3	72.4	70.5
	書く能力	76.8	80.2	68.0
	読む能力	65.7	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	79.6	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

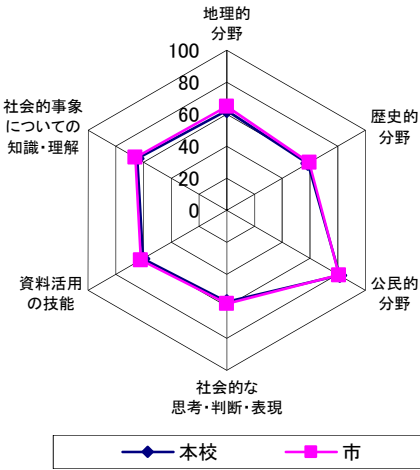
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○昨年度の領域別の66.7よりも2.6ポイント、上回っている。 ●領域別、観点別共に市の平均値より3.1ポイント下回り、昨年度の2.9ポイントよりも0.2ポイント下回る結果となっている。他の領域、特に「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習に時間を割いてしまった結果が浮き彫りになってしまった。	・話し合い活動の中で、考えに至った根拠を明確にして話すことを徹底し、相手が納得する、説得力のある話し方を養うため、コロナ対策を十分にした上で、スピーチや小グループの話し合いなどを行い、強化していく。
書くこと	○昨年度の領域別の71.9より8.7ポイント上回っている。 ●領域別では市の平均値より3.5ポイント、観点別では3.4ポイント下回っている。4項目中最も低い正答率である。他の領域、特に「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の学習に時間を割いてしまった結果が浮き彫りになってしまった。	・はじめ、なか、終わりといった文章の構成の基礎的な知識習得と、読み手に文意が伝わりやすい効果的な文章の書きかたを学ぶため、実践場面を意図的に作り、書く経験を増やす。
読むこと	○昨年度の領域別の50.3より17.9ポイント上回っている。 ●領域別では市の平均値より1.3ポイント、観点別では1.8ポイント下回っている。	・説明文や論説文の読み方、小説や随筆、そして詩や短歌・俳句などの散文についての読み方や読解の違いについて理解する力を育てるため、授業で基本的な知識を指導する。またテストで的確に解答する力を育てるため、ポイントを解説したり類似問題を解かせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○昨年度の領域別の74.3より5.2ポイント上回っている。 ●領域別では市の平均値より1.3ポイント、観点別では1.2ポイント下回っている。	・漢字や慣用句、文法など言葉の正確な習得を図るため、定期テスト等で既習の言語事項を復習する内容の問題を出題し、何度も学びなおすことを促す工夫をする。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.3	64.8	54.5
	歴史的分野	58.5	59.7	52.2
	公民的分野	81.4	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.2	58.3	49.5
	資料活用 の技能	60.4	62.2	53.1
	社会的事象 についての 知識・理解	64.6	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

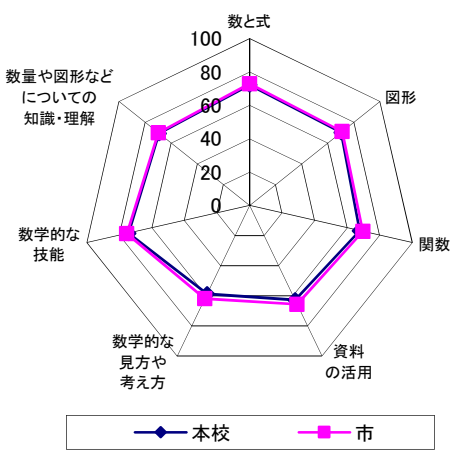
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○六大陸と主な国々についての設問の正答率が78.5%と、市と全国共に上回っており理解が高い。「日本の諸地域」について、平均は市と大きく変わらないが、「世界から見た日本の姿」では市の平均より正答率が低い。 ●複数の資料を関連づけて多面的・多角的に考察し、その内容を表現することに課題が見られる。	・複数の資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することに課題があるので、地図や雨温図、写真資料や統計資料から考察・判断・表現をする機会を意図的に設けていく。資料の見方や地図の活用など、基礎的な力を丁寧に指導する。
歴史的分野	○飛鳥時代から平安時代にかけての歴史上の人物を世界遺産と関連づけて考察する設問では、正答率67.2%で市や全国の前年を上回った。 ●資料をもとにした活用問題において、藤原道長の政治や徳川家光の政策など基礎的な設問の正答率が低かった。綿花栽培や江戸時代の農業の特徴など、産業面の資料活用問題においても、正答率は低めであった。	・時代により基礎的な知識・理解が乏しい場面が見られるので、知識を定着させられるような単元ごとの工夫を行いたい。大きな歴史の流れで捉えさせられるように、時代ごとの振り返りやまとめを行いたい。産業面では現代につながる部分も多いので、身近な生活にも関連させて指導していく。
公民的分野	○公民的分野の正答率は、市の正答率を上回った。 情報化や少子高齢化、グローバル化など、現代社会の特徴を理解し、資料をもとに正しい判断ができています。 ●効率と公正の判断基準についての考察の設問で、正答率56.4%と低かった。しかし、その他の設問の正答率は80%を超えている。	・実際に身近な場面で起こっていることや時事的な問題など、課題として捉えやすいものについては、関心を高めて学習に臨ませたい。政治や経済の学習に入ると途端に興味を無くしてしまう生徒もいるので、話し合い活動を充実させることや実際に起きている事柄を事例に出すなどの工夫をする。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.3	73.0	67.5
	図形	70.3	71.1	59.5
	関数	67.6	69.7	60.0
	資料の活用	62.7	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	58.7	61.8	49.6
	数学的な技能	74.4	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	69.3	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

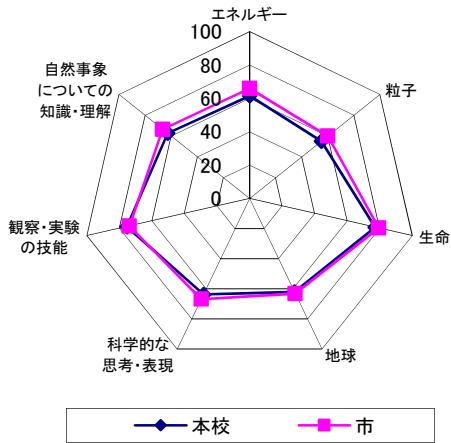
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算である累乗を含む正負の計算や連立方程式の計算、式の展開、因数分解の分野の校内正答率は、80%を超えてよく理解している。 ●平方根の大小や有理化を含む計算、2次方程式の解を求めることに関して、校内正答率は60%を下回っている。2次方程式の利用は30%を下回り、領域内最低正答率である。	・約分や通分、移項、有理化などを含む計算が課題である。 特に方程式の理解が不十分なため、全ての数の分子および分母に同じ数をかけ分母を整えることを意識させながら、多くの問題を解く機会をつくる。
図形	○回転移動させた図形の角度や多角形の内角の和などの問題は、校内正答率が市の正答率を上回っている。 ●三角形の高さを作図する問題の校内正答率は60%を下回っており、証明の必要性についての問題は市の正答率を下回ってしまっている。	・基礎的な問題は理解しているが、公式や定義、定理を利用して解く応用問題が課題である。表現力をのばすため、証明問題を重点的に行う演習の時間をつくる。
関数	○比例の式と表を対応させる問題の校内正答率は、80%を超えてよく理解している。 ●式とグラフを対応させ、座標から立式をする問題や変化の割合を求める問題の校内正答率は市の正答率を下回ってしまっている。	・関数に対して苦手意識があるようである。”変化の割合”や”切片”などの用語を正しく理解している生徒が少ないため、本質を理解できるように促していく。併せて、1次関数は直線のグラフ、反比例や2次関数は曲線のグラフになることが結びつくような指導をしていく。
資料の活用	○表から平均値や中央値を求める問題の校内正答率は市の正答率を上回っている。 ●組み合わせの考え方をを用いた確率を求める問題の校内正答率は市の正答率を下回っている。	・平均値や中央値、最頻値、階級値は理解しているため、資料の読み取りはできるが、ヒストグラムに対して値がどう影響するかは理解できていないため、問題演習の機会を増やしていく。また、重複が含まれる確率の問題も課題となっているため、反復練習を行う時間をつくる。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.5	66.1	56.4
	粒子	55.1	60.0	57.4
	生命	77.2	79.4	75.2
	地球	62.1	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	63.7	66.8	57.2
	観察・実験の技能	75.4	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	62.8	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

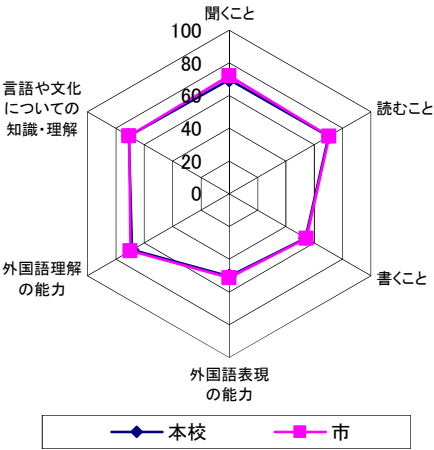
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○紙テープの打点のようすから、台車の速さの変化を求める実験操作の問題は、校内正答率が市の正答率を上回っている。 ●誘導電流についてなど、実際目に見えない現象を答える問題は、どれも下回っていた。	・実験操作をしっかりと把握しているので、さらに力を入れて学習させていきたい。 ・科学現象から説明し、判断することが苦手な生徒が多い。考察力を育てるため、レポートに自分の考えを書かせるようにする。
粒子	○ガスバーナーの炎を正しく調整や、酸化銅の還元の実験で、石灰水からガラス管をとり出した後に火を消す理由など実験操作の問題は、校内正答率が市の正答率を上回っている。 ●電離の様子や酸化還元の例をあげるなどの思考的な問題は大きく下回っている。	・実験操作をしっかりと把握しているので、さらに力を入れて学習させていきたい。 ・科学現象から説明し、判断することが苦手な生徒が多い。思考的な力を伸ばすために、丁寧に自分の考えを書かせるようにする。
生命	○植物など実際に触ったり見たりしたことのある問題は、全体的に校内正答率が市の正答率を上回っている。 ●人間の体の中や生殖など説明を求める問題は大きく下回っている。	・実際に手で触ったり、見たりしている問題の正答率が高いので、体験学習をしたことがない単元では、映像などを多く用いて説明し、生徒が具体的に言語化できるようにする。
地球	○図と表を読みとり、風向について考えること、台風が北上したときに東寄りに移動する理由を説明するなど、身の回りで体験したことのある問題は、校内正答率が市の正答率を上回っている。 ●地層の問題など、身の回りで感じ取ることができない問題は、全体的に下回っている。	・体験したことがある現象を説明できる生徒が多い。 ・体験学習をしたことがない単元では、説明することが苦手な生徒が多いので、映像などを多く用いて説明する。

宇都宮市立清原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.8	72.2	67.8
	読むこと	70.2	70.5	70.4
	書くこと	54.0	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	50.4	51.2	49.2
	外国語理解の能力	68.6	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	70.9	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話の内容を聞き取り、適切に応答する(買った場所をたずねられて)(来られるかたずねられて)ことは、市より0.4、0.9ポイント上回っている。 ○英文の概要を聞き取り、適切な応答をすることにおいては市の平均を上回る問題もあった。 ●英文の内容を聞き取り必要な情報を理解する事においてはで市の平均を8.0ポイント下回り、対話文の応答にやや難がある。	・授業中の指示や説明もできるだけ英語を使って行うなど、教師が英語を話す場面を増やす。また英語に慣れさせるため、ALTの活用の仕方を工夫して、生徒がネイティブの英語を聞く機会を増やす。 ・様々な場面での反応の仕方を身に付けさせるために、相手からの質問にその場に応じた返答例をより多く示す。
読むこと	○メールの要点を整理し、相手の意向に適切に応じることができることで市平均を5.1ポイント上回ることができた。 ○長文の読み取りでメールの内容をふまえて、空欄に適切な語を入れることができるでポイントが、1.7ポイント市平均を上回っている。 ●語形・語法の知識・理解で(It's ~ for ... To不定詞の文)で3.8ポイント市の平均を下回っている。	・文法的事項の理解を深めさせる。 ・できるだけ多くの英文に接する機会を増やす。 ・会話文では、状況や場面を意識して読む習慣をつける。 ・重文や複文に対しての使い方の反復練習を増やす。
書くこと	○英文を正しい語順で書くことができる(疑問詞+to不定詞)で市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○英文を正しい語順で書くことができる(現在完了形(完了)の疑問文)で市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことの定着が悪いことが分かった。	・基本文の反復練習をする。 ・自己表現活動を多く取り入れる。 ・家庭学習の習慣を定着させる。 ・自分の考えや意見を作文するような場面を設定し、3文から5文でまとまりのある作文となるよう、文の構造についてさらに学習を深める。

宇都宮市立清原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の充実	○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任・学習委員会からの指導・声かけをし、家庭学習の機運を高め習慣化を図る。 ○学活での家庭学習指導の時間を位置づけ、自主学習ノートの使い方の例示を学習委員会を通して全校生徒に示す。 ○コロナ禍による休業時に、家庭における自主学習支援のために「清原のとも」を各学年3号まで発行し、家庭学習の習慣化と効率化を図る。	・「新しく習ったことは何度もくり返して練習している」について、3年生では74%で市の平均を5%上回っているが、下級生に至ると数値が下がり、1年生では53%と市の平均を6%下回っている。 ・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」に肯定回答は全学年で85%以上であり、市の平均と同じである。 ・自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」は3年では69%だが1年生では55%であり、市の平均を7%下回る。家庭学習の内容が計画的・網羅的にできていない現状がある。
「宇都宮モデル」を活用した授業実践	○課題意識を高め、解決の見通しがもてるような課題提示、自分の学びを振り返る時間を確実に位置付ける。 ○授業づくりの重点目標を『主体的・対話的で深い学びに向けた授業』とした、一人一授業公開を教師全員が実施する。	・学習内容定着度調査において、国語科の「書くこと」「読むこと」は、市の平均をやや下回るものの、それぞれ大幅に上昇した。また、英語科の「書くこと」「聞くこと」は市の平均を超えるまでに上昇した。ただ、いずれも「聞くこと」において「聞いた内容を正確に理解する」ような項目について課題を残している。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・家庭学習の充実を目指した「自主学習ノート」の事業は、3年生・2年生においてはそれなりの効果をあげてきたと考察できる。他方、1年生は例年に比べても低い数値である。これはコロナ禍における休業によって、新入学時の学習習慣付けが思うように進まなかったことが考えられる。これらの数値は、例年、学年が進むにつれて上昇する傾向があり、学習習慣や学習技能の習得・習熟によって上がるものと考察できるため、次年度は新一年生の学習指導時に、新2年生に対しても「家庭学習の充実」にむけての追指導を重点的に行うことで、早急に遅れを取り戻したい。また、本校生徒は「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の数値が低い傾向があるため、定期テスト学習計画の作成と実施など、半月・ひと月スパンでの家庭学習の「振り返り」の機会を適切に講じるようにしたい。
- ・「主体的・対話的で深い学びに向けた授業」を目標とした一人一授業の実施や、それを意識した日々の授業実践等で、国語科・英語科の学習状況定着度調査における「書くこと」「読むこと」の力は上昇させることができたと考えられる。他方「聞くこと」、特に「聞いたことを正確に理解する」ことについては未だ平均と開きがある。
- ・「宇都宮モデル」を活用しての授業づくりのため、全職員が「目標」と「まとめ」を板書するとともに、授業の中で分かったことを言葉で書かせたり、他の人に向けて説明させる「振り返り」の機会を増やしたりした。今年度のとちぎっ子の調査は他と比較のできるものではないが、「授業のなかで目標（ねらい）が示されている」では96.8%、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動を良く行っている。」では、78.3%の生徒が肯定的な回答を示しており、これらは市の平均値を上回っている。しかし、「目標（ねらい）の提示」は数値的にはまだまだであり、次年度も継続して進めていきたい。

